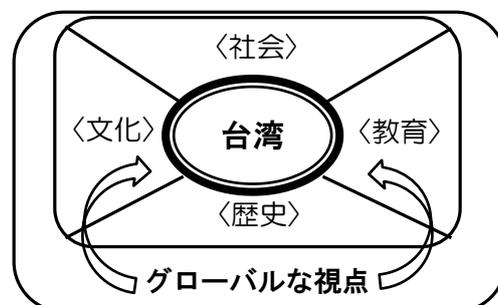


平成29年度 復興と未来を担うグローバルリーダー育成推進事業 台湾研修

平成29年12月6日（水）から10日（日）、「台湾の〈歴史〉〈社会〉〈文化〉〈教育〉を知り、『グローバルな視点』とはどのようなものかを考える」をテーマに、本校2学年GL部の生徒13名が台湾研修に参加しました。

12月6日(水) 移動日

飛行時間は4時間、時差は1時間で、体調を崩す生徒もなく、比較的楽に移動できました。初日から台湾料理に舌鼓を打ち、翌日からの活動に向けた英気を養いました。



12月7日 淡江大学での授業参加／迪化街にて現地大学生と街歩き

午前中は、淡江大学で授業に参加させていただきました。2つのグループに分かれ、英語の授業ではA班はディスカッション、B班はスピーチの授業に参加しました。私たちと同様、英語を母語としない台湾の大学生が英語を学ぶ様子は、刺激になったと思います。

次に、日本語の授業では、A班は将来、日本語を教えることを志望する大学生が学ぶ教授法の授業に参加しました。外国語の教授法の一部を知り、自分たちの英語の学習方法を改めて見つめ直す貴重な機会となりました。B班は、大学生たちが事前に考えてくれた質問に答える機会を与えてもらいました。ここでは、日本の生活文化やアニメなどに関する質疑応答があり、自分たちとの違いや共通点を知る貴重な機会となりました。



午後は、現地大学生の案内で迪化街を散策しました。迪化街は、様々な時代の建築様式が混在したユニークな場所でした。天候には恵まれませんでしたが、5人の現地大学生と小グループに分かれた街歩きでは、英語をベースに日本語を交えながらじっくりと交流を深めることができました。

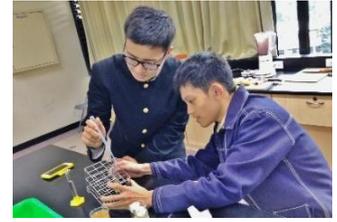


12月8日 臺北市私立再興中学の生徒との一日交流

今回の研修のメインの活動として、臺北市私立再興中学の高校生と一日交流を行いました。歓迎式の後、本校生が「福島県・会津若松市について」「会津高校について」、「震災遺産、原発問題について」、それぞれ事前に準備したプレゼンテーションを行いました。



全員で参加した生物の授業では、様々な食物の DNA を採取する実験をペアで行い、その結果をそれぞれ発表しました。英語でやり取りをしながら、スマートフォンのアプリを使用してその場でプレゼン資料を作成していく活動は、なかなか日本ではできないものでした。



午後の英語の授業では2つの教室に分かれ、本校生のプレゼンを問題提起としてディスカッションを行い、議論の結果を班ごとに英語で発表しました。与えられた課題に対して、英語でコミュニケーションを取りながらその解決を図る活動は、なかなか難しいものでしたが、本校生も再興中学のみなさんも真摯に取り組んでいました。



最後に生徒たちが事前に選んだ部活動に参加してもらいました。部活動の種類は日本の一般的な学校よりも多く、どの部も活発な活動が見られました。一日だけの交流でしたが、非常に密度の濃い時間を過ごすことができました。



12月9日 台湾の歴史をめぐるフィールドワーク (国立台湾博物館 ～ 二二八紀念館 ～ 故宮博物館)

実質的な活動の最終日となったこの日は、朝から5人の現地大学生と小グループに分かれての行動となりました。

国立台湾博物館では、台湾の豊かな生態系の成り立ちや先住民族の歴史などを学びました。

二二八紀念館では、当時の台湾社会の「分断」を考える機会となりました。当時の様子を詳細に伝える展示の数々は、非常に生々しいものでもありました。

その後、台北市内で開催されていた「東北フェア」という東北6県の観光PRイベントに足を運びました。現地での関心も非常に高い様子が感じられました。

最後のフィールドワーク先となった故宮博物館では、“中国4000年の歴史”を堪能できるだけの圧倒的な展示品の数々を目の当たりにすることができました。



12月10日(日) 移動日

早朝からの帰国となりましたが、空港まで向かう車中では、現地ガイドの陳さんが最後まで熱心に台湾の歴史や台湾と日本のつながりを語って下さいました。親日家・知日家が多いと言われる台湾ですが、今回の研修旅行ではまさにそうした台湾の姿をまざまざと感じさせられました。